

科目名	基礎看護Ⅵ (診療の補助・与薬・感染予防技術)				DP2 DP3 DP4 DP6		看護高等課程	
学年	1 年	分野	専門 基礎看護 基礎看護技術	時間数	30 時間	担当教員	武田 玲子 (25) 村山 有美 (5)	
科目 概要	診療に伴う看護技術は、医師の指示に基づいて行い、身体に直接的または間接的に医療機器や器具を用いることが多く、身体侵襲や苦痛を伴い、医療事故や感染のリスクも高い。そのため、人体の構造と機能の理解や安全管理、感染予防を視野に入れ、診療の目的を達成するために正確かつ安全・安楽に実践する方法を学ぶ。処置の種類・目的・原理原則、根拠を踏まえた看護技術の実際と羞恥心や苦痛の軽減に向けた看護を学ぶ内容とした。							
到達 目標	1. 感染予防の知識を身に付け、感染を予防・防止するための方法を実施できる。 2. 診察・治療における看護職の役割が理解できる。 3. 検査の種類や方法を知り、検査における注意事項や観察点を述べることができる。 4. 安全で痛みを最小限にした採血方法を実施することができる。 5. 与薬や輸血を安全に実施するための方法が理解できる。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
1～5	感染予防の技術		感染とは、援助の基礎知識、衛生的手洗い、速乾性 擦式手指消毒法、滅菌手袋の装着、ガウンテクニッ ク、隔離、無菌操作、医療廃棄物の処理				講義	村山
	感染予防の技術 診療・処置に用いられる 物品の援助と取り扱い		感染予防の援助の実際 ディスプレイ製品、ゴム製品、金属製品 中央滅菌材料室				演習	
6～29	診療・主な検査		診療、主な検査（検体検査、尿検査、便検査、喀痰検査、咽頭分泌検査、血液検査）				講義	武田
	画像診断のための各種検査法		単純X線検査、造影検査、X線CT検査、磁気共鳴画像、超音波検査、内視鏡検査					
	与薬の技術		与薬とは、経口的与薬、直腸内与薬、経皮吸収パッチ、点眼、点耳、点鼻、吸入、注射法、皮下注射、筋肉内注射、皮内注射、静脈注射、点滴静脈内注射 中心静脈栄養法				講義 演習	
	輸血		輸血療法とは、輸血の原則と援助の実際				講義 演習	
	採血の技術		採血の技術の実際				演習	
30	試験						試験	村山・武田
評価 基準	村山・武田合わせて 100 点満点とし、6 割以上を合格とする。また、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席が必要となる。							
評価 方法	出席状況と講義演習への参加態度、課題レポート、筆記試験などで総合的に評価する。 また、演習の内容によっては、シミュレーション演習、パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。							
教科書	看護学入門 6 基礎看護Ⅱ 基礎看護技術 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床 看護技術 医学書院 必要時、資料等は配布する。							
履修上の 注意点								